

Management Club Report

Jul. 2009/Vol.79

Monthly Opinion 《真のリーダー像を考える》

今月は選挙の季節に因み、政治におけるリーダーシップのあり方を参考に、歯科医院の院長としてどのようなリーダー像を目指すべきかを論じてみたいと思います。

政治が動いています。いよいよ自民党が野党に転落し、民主党政権が誕生する時を迎えるのでしょうか。しかしマスコミによる世論調査などにも表れていますが、私たち一般国民の多くは、真に民主党政権に期待を寄せているようにも思えません。今日の政局は、民主党への信頼感が高まったことよりも、自民党への拒絶感が広がったことによって引き起こされているように思えます。このような後向きで消極的な政変が起きようとしていることは国民にとって大きな不幸と言うべきでしょう。

それにしても最近の政治や政治家に対する国民の失望感はどこから来ているのでしょうか。社会保障問題や経済対策などいろいろあるでしょうが、それらはどの党の誰が行っても直ぐに解決できる問題ではありませんので、そのことに対する成果不足ではないでしょう。私はズバリ『選挙狙いの衆愚政治に陥った取り組み姿勢の卑しさ』にあると思っています。

これは政治の場面だけではなく、社会のあらゆる場面にはびこる現代の世相に通じています。利益を得ようとするがあまりの『おもねり行動』と重なります。国民に耳障りのよい政策を並べて選挙に勝とうとする、官僚政治の無駄を吹聴して人気を取ろうとする、ライバル政党のスキャンダルを大袈裟にあげつらっては落とそうとする。そんな軽薄で下品な政治手法に多くの国民が辟易としましたという、社会の潮目の変化と捉えることができそうです。

1

政治の“真のリーダー”を作るのは誰か

新聞が示してくれた“正論”

日本経済新聞に時折り登場する『核心』という論説記事があります。社説のように毎日組まれるものではなく、混迷する時局の本質を見極めようとする時、垂れ込めた暗雲を吹き飛ばす一陣の爽風のように、本質を覆い隠している雑多な考えや動きを払いのけてくれる骨太の論説です。

毎回“核心”を衝いた正論が展開され、思わず膝を叩いてしまうほどの説得力に富み、実に爽やかな気分を味わうことのできる、“清涼剤”のような力を持つ